

施策番号	0301		
施策名	青少年の自主的な活動の促進		
概要	青少年がみずからの生き方をデザイン（自分づくり）する能力を身につけられるよう、多様な体験の機会や世代間・異年齢間交流を促進する。また、青少年のもつ多様な感性が発揮されるよう、青少年の社会参加・社会形成活動を促進する。		
担当局・部室	文化市民局・共同参画社会推進部	共管局・部室	
上位政策	3 青少年の成長と参加		
施策に関係する 主な分野別計画等	はばたけ未来へ！京都市ユースアクションプランー第3次京都市青少年育成計画ー		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		24年度	25年度	26年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	青少年活動センターの事業参加者数(人)	a	a	129,269	130,964	108,910	120.2%	a	1.00
2	百井青少年村の施設利用者数(人)	a	a	9,420	11,899	7,576	157.1%	a	1.00
3	審議会等に参画する青少年の人数(人)	c	b	45	101	61	165.6%	a	0.50
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	a	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		26年度回答					有効回答 者数	評価
		そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう思わ ない	そう思わ ない		
1	青少年が社会体験を通して「生きる力」を伸ばせている。	19 3.9%	63 13.0%	239 49.5%	127 26.3%	35 7.2%	483	c
2	青少年が自分の生き方や将来像を思い描けている。	10 2.1%	51 10.5%	227 46.6%	139 28.5%	60 12.3%		
3	青少年が社会の幅広い分野にかかわり、意見や活力が生かされている。	5 1.0%	89 17.8%	218 43.7%	128 25.7%	59 11.8%	499	c
4	-							
5	-							
		市民生活実感調査総合評価						c

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている					
	重み付け	☒ 客観指標	a	☐ 市民の実感	c	
(重み付けの理由) 青少年という対象者が限られた施策であり、市民の生活実態に施策の効果がすぐには反映されにくい性質があるため、客観指標総合評価を重視する。						25年度
(原因分析) 【客観指標】●青少年活動センターの事業参加者数は、青少年のニーズを巧みに汲んだ企画が多かったため増加したと考えられ、3年連続a評価と高い評価で安定している。 ●百井青少年村の施設利用者数については、指定管理者による日帰りや宿泊の事業が充実していたため、利用者が2年続けて大幅増となり、3年連続a評価と高い評価で安定している。 ●審議会等に参画する青少年の人数については、附属機関等の位置付けが見直されたことと青少年委員が確保できたことに伴い、b→a評価と改善した。 【市民の実感】平成25年度は総合評価がd→c評価に改善したものの、依然として伸び悩んでいる状況にある。これには、厳しい経済状況や社会情勢の中、若者の就職難をはじめとした若者を取り巻く様々な問題などがニュース等で取り上げられることが多く、青少年がいきいきと活動する姿を実感として持ちにくいことが原因と考えられる。						24年度
						B

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		26年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		25年度 決算額	26年度 予算額		
1	青少年モニター制度	4,285	4,432	悪い	文化市民局
2	京都市青少年活動センター	297,003	305,571	—	文化市民局
3	京都市百井青少年村	14,742	15,046	—	文化市民局
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

●青少年活動センターについては、引き続き青少年のニーズを踏まえた事業を展開し、事業参加者数の増加に努める。
●百井青少年村については、引き続き指定管理者による野外活動事業を実施するとともに積極的に広報活動を行い、利用者数の増加に努める。
●審議会委員への青少年の参加については、審議会の専門性や内容を考慮したうえで、可能な限り青少年の参加を推進するよう引き続き各担当課に働き掛けを行っていく。
●青少年がいきいきと活動することが課題となっていることから、場所や機会の提供など、これまで以上に青少年の余暇支援活動を幅広く展開していく。

施策名	0301	青少年の自主的な活動の促進				
-----	------	---------------	--	--	--	--

指標名	青少年活動センターの事業参加者数(人)					
-----	---------------------	--	--	--	--	--

担当課	勤労福祉青少年課		連絡先	2 2 2－3 0 8 9		
-----	----------	--	-----	---------------	--	--

1 指標の説明

各青少年活動センターで実施する事業に参加する青少年の人数

2 指標の意味

青少年活動センターが提供する青少年の社会参加や自立の機会の活用状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	24年度	25年度		数値	根拠	達成度
数値	129,269	130,964	1,695人増	108,910	平成21年度現況値(100,518人)から過去5年間の増加数を維持するための数値(平成32年度の目標値から各年度の目標値を等差的に算出)	120.2%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値		123,600	32年度	106.0%	16年度から21年度現況値までの5年間の増加数を、21年度から32年度までの増加数として当てはめた数値	

5 評価基準

単年度目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：95%以上100%未満
c：90%以上95%未満
d：85%以上90%未満
e：85%未満

6 基準説明

平成32年度の目標値の達成には相当の努力を要するものの、年次ごとの目標値を上回ることとは不可能でないため、達成度100%以上をa、以下5%刻みで按分した。

7 評価結果

24	25	26
a	a	a

1 指標の説明

百井青少年村の利用者数

2 指標の意味

青少年の成長に欠かせない自然体験の機会の活用状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	24年度	25年度		数値	根拠	達成度
数値	9,420	11,899	2,479人増	7,576	平成21年度現況値(7,368人)から過去5年間の増加数を維持するための数値(平成32年度の目標値から各年度の目標値を等差的に算出)	157.1%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値		7,940	32年度	149.9%	16年度から21年度現況値までの5年間の増加数を、21年度から32年度までの増加数として当てはめた数値	

5 評価基準

単年度目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：95%以上100%未満
c：90%以上95%未満
d：85%以上90%未満
e：85%未満

6 基準説明

平成32年度の目標値の達成には相当の努力を要するものの、年次ごとの目標値を上回ることとは不可能でないため、達成度100%以上をa、以下5%刻みで按分した。

7 評価結果

24	25	26
a	a	a

施策名	0301	青少年の自主的な活動の促進				
指標名	審議会等に参加する青少年の人数（人）					
担当課	勤労福祉青少年課		連絡先	222-3089		
1 指標の説明						
京都市の審議会に参加している13歳から30歳までの青少年の総数						
2 指標の意味						
青少年の力が生かされる社会の発展に向けた、社会参加，社会形成の推進状況を示す指標						
3 算出方法・出典等						
出典：事業担当課調べ						
4 数値						
	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	24年度	25年度		数値	根拠	達成度
数値	45	101	56人増	61	政策指標である「青少年が参画している審議会等の割合」の21年度時点の値（17.1%）と25年度目標値（18%）を，平成21年度の当指標の実績値（58人）に当てはめて算出	165.6%
	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値						
5 評価基準						
最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満			6 基準説明			
			当該指標については，審議会の数に影響されるため，80%以上をa，以下20%刻みで基準を設定した。			
7 評価結果						
24		25		26		
c		b		a		